

資料 1

草津市幼保一体化検討委員会主な意見のまとめ（第5回の振り返り）

項目	内 容
幼保の教育・保育の質、内容などについて	実際に園で過ごす時間をいかに充実させるかということも考えていかなければならない。
	質の高い教育・保育のあり方というのが基盤であり、その延長線上に幼保一体化がある。
	幼保一体化を進めるにあたり、人と関わって教育・保育を一体的に提供するという点を重点におきたい。待機児童解消だけでなく、教育・保育の本質を忘れずに検討していかなければならない。
	すべての子どもたちに等しく、教育・保育の中身を保障していくということがとても大事。子育て支援の充実性は高まっているが、同時に基本的な保育・教育時間をいかに充実させるかが重要。
	保護者の仕事や家庭の状況により短時部・長時部が変わりうるが、子どもを育てていくという部分では、お互いに協力し合あうことが肝心であり、そのやり方を工夫しながら、そこでできることを幼保一体化したときに具体的に考えていきたい。
給食における配慮	給食は作ったものを食べさせる、食べてもらうだけではなく、作っている最中のこと、においや音、特に乳児の場合は、1対1で関わるのが重要。給食については、自園給食を行っていくことがとても大切。食について話題になっている今、子どもとつくる側が信頼関係を保つためにも、給食についてはきちんとこの提言の中に入れていきたい。
	子どもが食に興味を持つというのが、今、やはりおかしなどに目がいきがちで、ご飯をあまり食べない子が多いという中で、保育所で食に興味を持ってもらえる。あと、食に関して、親がいろいろ相談できる場になる。それが大事であることを念頭におき、給食室の設置などを検討いただきたい。
幼保人材交流	幼保人材交流の内容や結果、改善方法などを開示し、まとめてほしい。
職員の処遇	先生方が足りない中で、施設の増員を重ねていくと、子どもに十分に目がいきわたらなくなってしまうかもしれない。ゆとりをもった人員確保をお願いしたい。

項目	内 容
低年齢児の保育や教育、支援	<p>幼保一体化のメリットとして、0歳からの育ちを見通した中で教育・保育を行うことで、3歳児以降の子どもたちの最善の利益を考えた教育・保育が可能になる。</p>
	<p>低年齢児（0歳児）からの継続した教育・保育がやはり必要。一貫した教育・保育の提供のための検討が今後必要になる。</p>
	<p>2歳児からの教育が大事だと感じたり、より低年齢児からの教育が必要だと感じたりする。園では教諭が勉強会を開いたりする中で、やはりお母さんとの関係が基本であることが分かった。</p>
	<p>小さい子の教育というのは、預かるものというよりは、親と一緒にするものであり、親との関わりが大切である。子育て支援を充実させていくことにより、0歳児、1歳児、2歳児への支援は変わっていくと思う。</p>
	<p>3歳児からの集団の教育の活動をしているが、やはり一貫した教育・保育をめざすために、その前段階の乳幼児へのアプローチが必要。</p>
	<p>現在、0、1歳児の待機児童が多く、そのあたりが解消されない限りは、保護者の就労が保障されない。ただし、単に保育人数を増やすのではなく、特に乳児に関しては少人数での保育が好ましく、乳児に合った空間を確保していくことが最も大事。</p>
待機児童の解消	<p>待機児童の解消は、幼保一体化における子育て支援とは別のところで、解消に向けて取り組んで行く必要がある。</p>
公私立の役割分担と私立の力の活用	<p>草津市の幼児教育について、まず私立から支えてきた経過の中で、建学の精神を大切にしながら、預かり保育の充実や3歳児保育などを展開してきた。そのような、民間の力を資源として、職員の力量や質の高い保育、歴史などを、積極的に活用していただきたい。</p>
	<p>民間活力を利用する中で、保育士の配置等への補助により、民間への必要な運営支援を行うことにより、3歳以上の全ての子どもに教育を提供することも可能になるのではないかと。</p>
	<p>一体化を推進していく場合、私立の園も一緒にやっっていこうという機運を作っていくことも大事。</p>
	<p>公立の幼保一体化がベースとして検討されているが、市民としては、私立の方が市税の財源負担が低いのであれば、私立の保育園で幼稚園児を受け入れることはできないかと思う。</p>
	<p>幼保一体化の方向性として、本市の幼児教育、保育を担ってきた民間の力を活かし、公・民が一緒になって新しいものをつくっていくことがいいのではないかと。</p>

項目	内 容
幼稚園での預かり保育	公立幼稚園での預かり保育が早速来年から実施され、喜ばしいが、通常の保育に支障がない職員体制が求められる。
子育て支援	幼保一体化施設のメリットの一つとして子育て支援機能の充実という点があり、それをしっかりと機能させることで、そのメリットがさらに強固なものとなる。